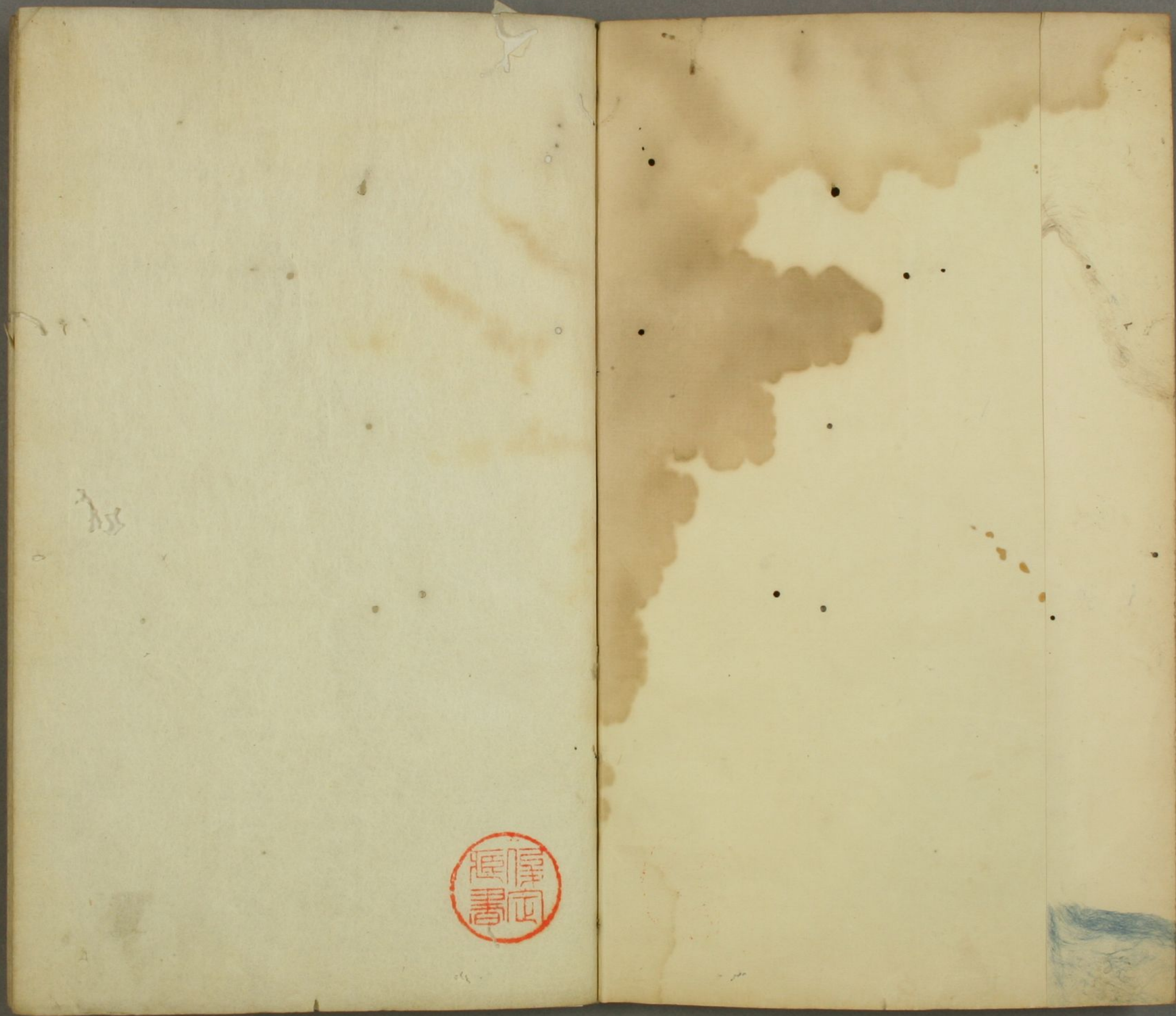




中村俊定文庫
文庫 18
356





昔師玉桂去年の冬



法小舞草や名心養と書付そ

是世傳りいふを先後の工ある

そ向清かゝるも似たりくある

類耳月下枯奴なるといふ亦

筆業のつれづれなる事也

流石右残うそはやまの入相の
ちつきとも覺悟し侍る一白
形しのかと退て是のそ歎あ利
此勢も蓋無侍りまさしあ
病のふはあそあし福無神醫
良系の志ふも又しす二月

中書五日仏とあふとあ
神耳あふし利の歎のそらハ
空歡一派の所をくあ清人
事成門禁何そ深くか所
とも甲斐あし抱ふら中耳
お存お終ふ年いつく美

深く屏又思澤の如くさうさ
志多し日如く何とまらふ
と云ふ深ふしと師小賢る深き
人この間給く輝きの向く
直る小冊と如く一靈ある
手向深直するもの



桐陰舎

治碩述

心強如磐石
及堂とほく人
や惺然
翠羽
治碩

間残す道やむねし
入相尋人毛別は花の下
西へは連くや杖笠すは終州
東もあおいと狭きいやり上
西へは形多急しは美の下
東梅と九年柏の落葉うね

梅 沾木

下 百山

終州 左桂

上 百桂

下 文鱗

時中

旅も旅摘州もねし
口身終露何急しは道の急
肩は水海くぬ旅や西の

桃李

石碩

翠羽

笠くもぬ何ときさし
看るもや笠ぬくは先は笠の急

中和

社 葵

津身油懸の深き小六の
心喪と形「を」例もあ
すや海いそ此きら〜記の能と
思へた者衣のかしらぬ西表
乃耳しらや一と日身行り結
ぬゆる当世の〜身強は坊前

海に流るる砂粒

葵園亭

翠羽

百辨

つらぬく毒のくさくさ月雨 翠羽
くさくさ糸車 葉輝 石碩



